2018 年 7 月 30 日

中央大学ライティング・ラボ
2018 年度前期活動報告書

抄録

2018 年度前期の実施セッション数は 539 件、昨年同時期の 1.2 倍となり、稼働率は 69.0%（昨年同時期 61.6%）であった（Ⅰ-3）。2018 年度前期の傾向としては、以下が挙げられる。まず、学部生において、利用学生が全学部に渡るようになったことである。特定の学部生に限って利用率が高いという状況ではなくなったことから、ラボの全学への衆知度が上がったといえよう。次に、初回利用のきっかけで「友人の勧め」に顕著な増加が見られることである。セッションの質が向上・安定したことから、セッションに満足する学生が増え、その結果口コミでの利用が増加したと考えられる。最後に、出張ガイダンス・ラボツアーの実施数は昨年度とそれほど変化がなかったものの、利用した教員による具体的なラボ利用の推奨が見られたことである。ラボを利用する具体的な課題遂行の状況を示すことで、効果的なラボ利用につながったといえよう。

69.0%という稼働率は、繁忙期は稼働率が 100%で、セッションが受けられなかった学生が多かったことも意味する。そのため、今学期は学生側からコマ数増加の要望が多く寄せられた。しかしながら、現在のラボの人員規模ではこれ以上の需要には対応することができない。2018 年度後期にも新規チューター採用予定であるものの、2018 年後期は研修期間となり、実質的なコマ数増加にはつながらない。従って、2018 年後期も週４日１日２ラインによる開室を維持する。

しかし、現状維持をすることで、チューターの超過勤務、セッションの質の向上・維持のための研修時間の不足、緊急性の高いセッションの受付不可、広報活動の時間不足という今学期の問題も継続することが予想される。公募によるチューターの安定供給を目指す一方で、チューターの労働条件を整え、人件費・労働契約等を検討していく必要がある。

以　　上

はじめに

2018 年度前期におけるライティング・ラボの活動状況について、以下の通り報告する。Ⅰでは開室状況と利用実績、Ⅱではセッション以外の活動、Ⅲでは来期にむけて特筆すべき所見を述べる。

Ⅰ　開室状況と利用実績

Ⅰ-1　開室期間と日数、チューター配置数

開室期間　2018 年 4 月 12 日から 2018 年 7 月 27 日までの月曜・火曜・木曜・金曜
開室日数　60 日
設置セッション数　781 コマ[1]

スーパーバイザー（SV）: 中野玲子　　アソシエイト・スーパーバイザー（ASV）: 阪口毅
チューター数　11 名　（一人当たり 4～8 コマ担当）

Ⅰ-2　受付方針　（2018 年度前期）

受付優先順位および予約の可否は、文章の種類（対象文章かそれ以外か）に基づく。

1. 対象文章
   授業で課題となったレポート及び発表レジュメ、卒業論文、修士論文、博士論文、投稿論文、プレゼンテーション原稿（スライド用・口頭用）、研究計画書、ボランティアセンター報告書、総合政策部プロジェクト活動報告書

2. 空きがある場合につき、受け付ける文章　（予約不可）
   奨学金応募書類に含まれる志望動機書
   留学志望書
   公務員試験練習課題
   そのほか、アカデミック・ライティングの観点でコメントできそうな文章
   外国語／日本語翻訳（授業の課題のみ）

3. 受付不可とする文章
   就職活動関係の文章（キャリアセンターへ案内）
   メールや手紙の文章
   公務員試験以外の筆記試験対策のための相談

[1] 稼働可能なブース数すなわちチューターの配置数をコマとしてカウントした。

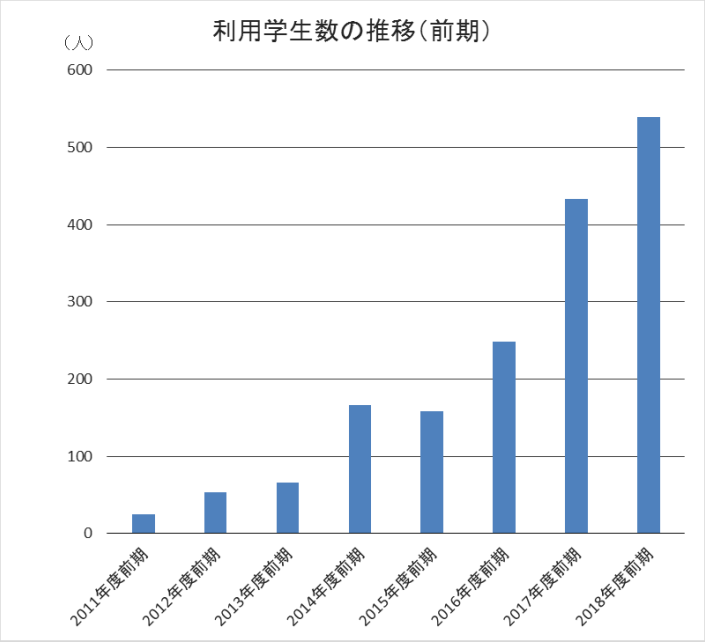
Ⅰ-3　実施セッション数と稼働率

実施セッション数（延長を含む）： 539 コマ（前年比 124%）

セッション稼働率：69.0%　（前年度 61.6%）

表：月別セッション設置数と稼動数

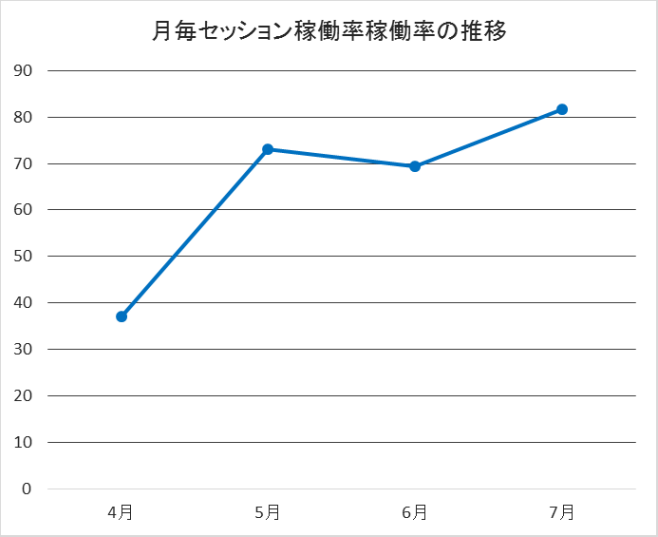
	設置数	稼動数	稼働率（%）
4 月	116	43	37
5 月	219	160	73.1
6 月	228	158	69.3
7 月	218	178	81.7
合計	781	539	69



注）2013 年度より日本人学部生の利用が開始された。

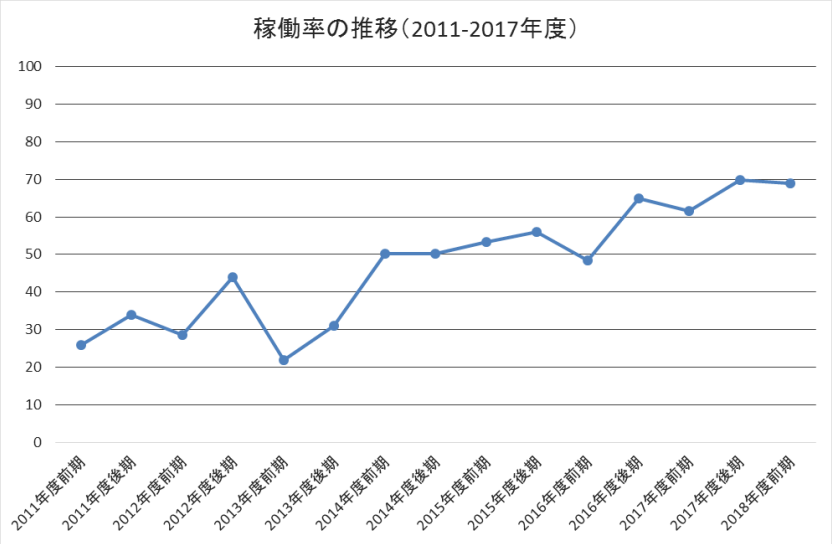
【所見】

大幅増となった 2017 年度に引きつづき、利用学生数の増加が続いている。**来年度以降の週 5 日開室にむけての確実な需要**が見込まれるが、**現在のチューター人員規模ではこれ以上のセッション受付は困難**となっている。



【所見】

2017 年度と比較して 5 月の稼働率の増加が見られた。これは経済学部など特定の授業の課題における需要があったためである。4 月の動き出しは鈍いが、奨学金や競争的資金の申請書など、この時期の需要をさらに掘り起こすことは可能であろう。5 月以降は 70-80%となったが、ピーク時には予約枠もすべて埋まり、チューターはほぼ空きコマなしで勤務する状況となった。後期はチューターの増員を含めて**労働環境の改善**を行いたい。



【所見】

2016 年度後期に急上昇した稼働率が維持された。「出張宣伝」をきっかけとして構築された特定の教員との協力関係が持続し、高い需要を支えたといえる。平均稼働率も昨年度後期からは 70 パーセント弱となっているが、繁忙期には 90～100%となっていることを踏まえると、研修・広報・緊急性の高いセッションへの対応のためには、**稼働率 60%程度が望ましい**と考えられる。利用者からは、開室日・時間の拡大を求める声が多く寄せられているが、**現在のラボの人員規模では、これ以上の需要には対応できない。**

Ⅰ-4　利用学生の内訳

＊利用学生数（延べ）[2]

2018 年度前期合計	539 名（前年比 124%）[3]
大学院日本人学生	18 名（前年度 12 名）
大学院留学生	40 名（91 名）
学部日本人学生	438 名（287 名）
学部留学生	43 名（43 名）

【所見】

学部日本人学生の顕著な増加が見られる。特定の授業課題での利用が多くみられた。伸び悩んでいた大学院日本人学生の利用も 1.5 倍となった。3 月に行ったワークショップ「学振道場」の効果もあり、日本学術振興会特別研究員の申請書類の利用も見られた。大学院留学生については 50%以上の減少となったが、セッション稼働率の増加によって「日本語チェック」のためのセッション延長が困難となったためであると考えられる。

＊利用学生の所属

法学研究科	14 名
経済学研究科	9 名
商学研究科	0 名
文学研究科	33 名
総合政策研究科	2 名
公共政策研究科	0 名
法学部	129 名　（うち法学部通信教育課程 0 名）
経済学部	166 名
商学部	81 名
文学部	90 名
総合政策学部	15 名
公共政策学部	0 名

＊利用学生の学年

学部 1 年	337 名
学部 2 年	40 名
学部 3 年	23 名

[2] 延べ利用数。実施セッション数に基づくため、同一学生の同一日利用および連続セッションを含む。
[3] 教授会での教員への広報、および「出張宣伝」による学生への広報活動の成果と思われる。

学部 4 年	53 名
学部 5 年以上	28 名
博士課程前期／修士 1 年	3 名
博士課程前期／修士 2 年	25 名
博士課程前期／修士 2 年以上	1 名
博士課程後期 1 年	9 名
博士課程後期 2 年	19 名
博士課程後期 3 年	1 名
博士課程後期 4 年以上	0 名
研究生	0 名
科目等履修生	0 名

＊利用学生の母語

日本語	456 名
中国語	70 名
モンゴル語	5 名
フランス語	4 名
韓国語	3 名
タイ語	1 名

Ⅰ-5　相談文章の種類

卒業論文	5 件
修士論文	8 件
博士論文	0 件
授業のレポート	361 件
ゼミ論文	2 件
投稿論文	24 件
研究計画書（入試用）	35 件
研究計画書（入試用以外）	6 件
ゼミ及びプレゼンのレジュメ	51 件
発表用口頭原稿	6 件
その他	41 件

※その他の内訳

奨学金応募書類、学振申請書、インターン応募書類など

Ⅰ-6　ネット予約状況

学生が使い方に慣れ、HP 上で空き情報を確認してから予約したり、早い段階から予約したりする学生が多数を占め、ネット予約による大きな混乱はなかった。総セッション数の46%がネット予約によるものである。

ネット予約月別数

4 月	10 件
5 月	70 件
6 月	92 件
7 月	80 件
合計	252 件

Ⅰ-7　利用学生からの評価――アンケート調査より

各セッション終了後、利用学生に任意でアンケート記入をしてもらった。アンケート回収数は 500 通。各質問項目と結果は以下の通りである。

1. セッションは有益だったか[4]

有益ではなかった	5 件[5]
あまり有益ではなかった	1 件
有益だった	96 件
とても有益だった	394 件

2.　セッションで有益だったのは何か[6]

日本人学生

〇一緒の検討に関するもの

・質問に対してしっかりと答えられているのかを考えることができたこと。

・チューターの方と対話をしながら、自分の資料を説明していくので、自分の論理の飛躍に気づいたりする点。

〇構成、構成要素に関するもの

・構成のチェックをしてもらえたこと。トピック・センテンス、接続詞の不足が判明したこと。トピック・センテンスを考えるためのアドバイスが的確だったこと。

---

[4] 「有益ではなかった」「あまり有益ではなかった」「有益だった」「とても有益だった」の 4 段階評価。

[5] 「1. 有益ではなかった」の 5 件中 4 件は、コメント欄に有益だったと分類できる記載があるため、「4. とても有益だった」の記入ミスと考えられる。

[6] 自由記述方式。コメント（原文ママ）を任意に抽出した。

〇文や語句に関するもの
・指示語が多かったり、感想文になっていたのに気づけてよかったです。

〇内容や思考の整理に関するもの
・問答することで、論点を整理して文章を組み立てられた。
・論理に飛躍があるかないかが、モヤモヤしていた。お話しをしているなかで、解消できたこと。

〇作業手順に関するもの
・どういう手順で何をすればよいのかがわかったこと。

留学生
〇一緒の検討に関するもの
・自分が本当に言いたいことを書けるようにていねいに質問してくれました。

〇構成、構成要素に関するもの
・構想の足りない部分を補足したからすごく役に立った。

〇文や語句に関するもの
・段落の最初のトピックセンテンスのことが不足で、追加したほうがいいということがよくわかりました。

〇内容や思考の整理に関するもの
・論の筋を一緒に整理できてよかったです。

〇日本語文法に関するもの
・表現、ニュアンスの適切かどうかについて検討して、助かりました。

【所見】
(1) アンケートから、セッションを通して、自身の思考についてメタ思考している学生がいることがわかる。「教えてもらう」場ではなく、「考える場」としてラボが機能しているといえよう。
(2) 留学生も今学期は日本語文法以外のニーズで来室する学生が増加した。留学生自身も、アカデミック・ライティング面での支援の必要性に気づいていることがわかる。

3. セッションまたはラボに対する要望など　【日本人学生・留学生あわせて】

〇セッション増希望　12 件

・水曜日開室希望　　2 件

・土日開室希望　　1 件

・昼休み開室希望　　1 件

・コマ数増加　　6 件

・時間延長　　2 件

【所見】

69. 0%という高稼働率のため、学期を通して予約がとりづらく、セッション増の希望が多かったと思われる。

〇チューターの専攻別・担任性希望

・専門知識についてもアドバイスが欲しかったので、同じ専攻の人がいると助かった。（同内容他 2 件）

・担任制を作るといいと思います。（同内容他 1 件）

【所見】

ラボはアカデミック・ライティングの観点から検討する場であることを学生に明示し、専門講義とラボの棲み分けについての理解を促進する工夫をしていきたい。

Ⅱ　セッション以外の活動

Ⅱ-1　広報活動

Ⅱ-1-1　授業への出張ガイダンス

2016 年前期から引き続いての試み。全教員へ向け、チラシとメールで出張宣伝の実施を告知。宣伝はチューターが担当した。1 年次演習への出張が多かった。

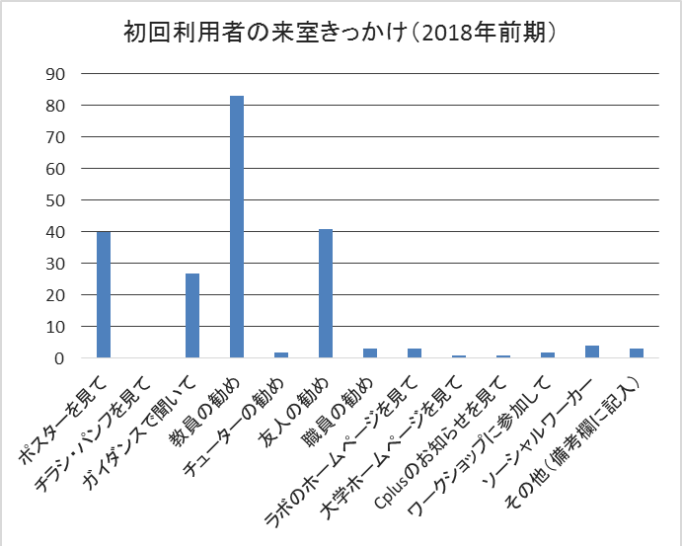
＊出張ガイダンス　　計 15 件

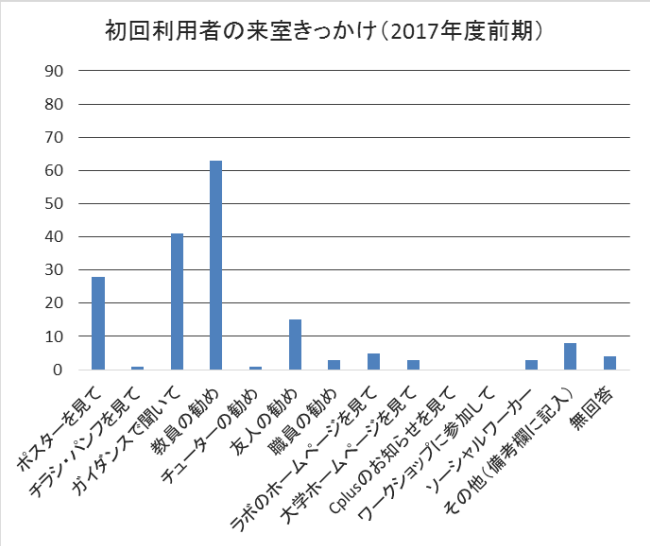
＊ラボツアー　　計 3 件

Ⅱ-1-2　院生向け宣伝の実施

大学院生のラボ利用促進を目的とし、2 号館 3 号館に中間発表に向けてポスターを掲示。中間発表資料を持ち込む学生もいた他、日本人大学院生の利用が 1.5 倍に増加となった。（留学生の大学院生利用率は、連続セッションの予約がとりづらくなったことが原因で、低下）昨期までは、日本人は学部生の利用が多かったため、今後は学部生と院生へのポスターをわけ、宣伝を実施することとする。

Ⅱ-1-3　初回利用者の来室きっかけ





【所見】

昨年度と比較して「友人の勧め」の顕著な増加がみられる。セッションの質が向上・安定したことで、友人間での口コミによって利用が促進されたと考えられる。

Ⅱ-2　ワークショップの実施

学部生へのラボの宣伝を目的としたワークショップを実施。2018 年度は、2、3 年目チューターのみで準備し、当日も運営の中心を担った。4 年目以降チューターはサポート役として参加した。本年度は開催時間を昼休みとし、昼食を食べながら参加可能とするなど、学生の参加しやすさを考慮した。

＊テーマ

30 分でわかるレポートの書き方―　「一文一義」の技法の習得

＊実施日、場所、参加人数[7]

6 月 18 日（月）12：40～13：10	3 号館 3351 教室	参加人数　53 人
6 月 21 日（木）同上	6 号館 6104 教室	参加人数　69 人

[7] アンケートの回収数をワークショップ参加人数としてカウント。

2018年度6月開催ワークショップ　アンケート集計表

回答者所属

所属	人数	2017年
法学部	54	27
経済学部	12	9
商学部	4	19
文学部	38	19
総合政策学部	12	2
法学部通信教育課程	0	0
法学研究科	2	1
経済学研究科	0	0
商学研究科	0	0
文学研究科	0	0
総合／公共政策研究科	0	0
その他	2	0
合計	124	77

回答者学年

学年	人数	2017年
学部1年	75	57
学部2年	23	11
学部3年	21	6
学部4年	1	1
修士1年	1	0
修士2年	0	0
博士1年	1	1
博士2年	0	0
博士3年	0	0
博士4年以上	0	0
その他	2	1
合計	124	77

何で知ったか（複数回答）

媒体	人数	2017年
ポスター	45	37
チラシ	8	8
ラボor大学のホームページ	11	3
教員の勧め	18	15
友人から聞いて	14	7
Cplus	16	5
チューターから聞いて	0	0
ツイッター	1	0
その他	11	2
合計	124	77

参考になったか（4件法）

	人数	2017年
とても参考になった	54	23
参考になった	62	54
あまり参考にならなかった	4	0
参考にならなかった	0	0
未記入	4	1
合計	124	78

今後ラボを利用してみたいか

	人数	2017年
はい	113	63
いいえ	3	1
利用したことがある	7	7
未記入	1	6
合計	124	77

【所見】

(1) 高稼働率の中、チューターの勤務時間内にワークショップの準備時間をとることが難しく、結果として、チューターの残業増へとつながってしまった。来年度以降は、ワークショップを担当するチューターのセッションは閉じる等工夫をして、時間内で準備ができるようにしていきたい。

(2) ワークショップ担当チューターのうち３名が、中杉派遣チューターも兼ねていたため、大学ワークショップと高校ワークショップの二つを担当したこともあり、負担増につながった。来年以降は、大学と高校のワークショップ担当者が重ならないように工夫していきたい。

(3) 参加者が増え、文学部棟で開催する会に、他学部からの参加者が来ることがあった。その際、行きなれない文学部棟内教室にたどり着けず迷う学生もいたことから、次回以降は当日案内掲示の工夫が必要。

Ⅱ-3　チューター研修

今学期は、ワークショップのテーマ「一文一義」及び文章診断力向上を研修テーマとした。高稼働率のため勤務時間内研修が全く実施できなかったため、チューター研修の時間を利用して、模擬セッションと文章診断練習を実施した。

＊実施日程

4 月 26 日（木）	前期キックオフ　ワークショップ日程調整他
5 月 10 日（木）	一文一義模擬セッション
5 月 24 日（木）	セッションの目的共有の仕方
6 月 7 日（木）	ワークショップリハーサル１回目
6 月 14 日（木）	ワークショップリハーサル２回目
7 月 5 日（木）	ワークショップ振り返り、学生アンケートから
7 月 26 日（木）	研究計画書文章診断練習

【所見】

全学期を通して、高稼働率を維持したため、チューター研修時間の確保が問題となっている。今学期は、自分の担当セッションを振り返る機会を設けることができなかった。秋学期以降は１・２年目チューターには、自分の担当セッションを振り返る時間を勤務時間内に設けることを検討する。

Ⅱ-4　中央大学杉並高等学校へのチューター派遣

＊開室期間とチューター数

開室期間　　2018 年 5 月 10 日から 6 月 21 日までの月曜・木曜
開室日数　　11 日
チューター数　3 名

＊利用実績

設置セッション数	102 セッション
セッション実施数	89 セッション
セッション稼動率	87.25％

【所見】

(1) 前年同期と比較し、設置セッション数を倍増（昨年同期 48 セッション、今期 102 セッション設置）したものの、相変わらず高い需要が続き、今学期も 87.25％という高い稼働率になった。その分、チューターの負担が増大しているため、来学期以降、１日のセッション数減も含め、高校側と検討したい。

(2) 今学期は、探求マップの書き直しが主な検討項目で、中杉教員のコメントがついている箇所を学生とチューターが一緒に検討するというセッションが多く見られた。

Ⅲ　来期に向けた所見

Ⅲ-1　後期の体制について

今学期は、チューター不足が大きな問題となったため、チューターの安定供給に向け、チューター公募を開始した。

	10 月採用	4 月（3 月末）採用	特殊講義（1）
4 月			前期授業開始
5 月			
6 月			
7 月	7 月 1 日　公募開始 （面接日は予め告知） 7 月 31 日　応募締切（17 時）		前期授業終了
8 月	8 月中旬　第一次選考（書類） 8 月下旬　面接日の通知		夏季集中講義
9 月	9 月 3 日　第二次選考（面接） →採用者決定		後期授業開始
10 月	10 月 1 日　着任		
11 月			
12 月			
1 月		1 月 7 日　公募開始 1 月 31 日　応募締切（17 時）	後期授業終了
2 月		2 月上旬　第一次選考（書類） 2 月中旬　面接日の通知	
3 月		3 月上旬　第二次選考（面接） →採用者決定 4 月 1 日　着任	

Ⅲ-2　開室曜日と時間について

今学期はラボの需要が供給を上回り、予約がとりづらく、学生からもセッション数増の要望が多く出ている。しかしながら、公募で採用する新規チューターは、後期は研修期間となるため、実働にはまだ時間がかかる見通しであることから、後期も週 4 日 2 ラインでの開室を継続する。週 4.5 日ないし 5 日開室にむけては、チューターの増員、SV や ASV 雇用条件の改善を含めた新たな制度づくりが求められる。

Ⅲ-3　チューターの労働条件改善について

稼働率の増大により（平均約 70%）、セッション報告の作業時間が確保できず、全セッション終了後に超過勤務せざるをえない状況になっている。まずは雇用契約書を勤務実態に即して改定することが必要であるが、下記 2 点の対応策を検討・実施したい。(1) 第 7 セッションの予約枠を 1 減し、閉室作業時間を確保する。(2) 繁忙期のみ、セッション枠を増やす。ただし人件費の増額（嘱託職員の枠ではなくチューター枠）が必要となる。

以上

2018 年 7 月 30 日
スーパーバイザー　中野玲子
アソシエイト・スーパーバイザー　阪口　毅